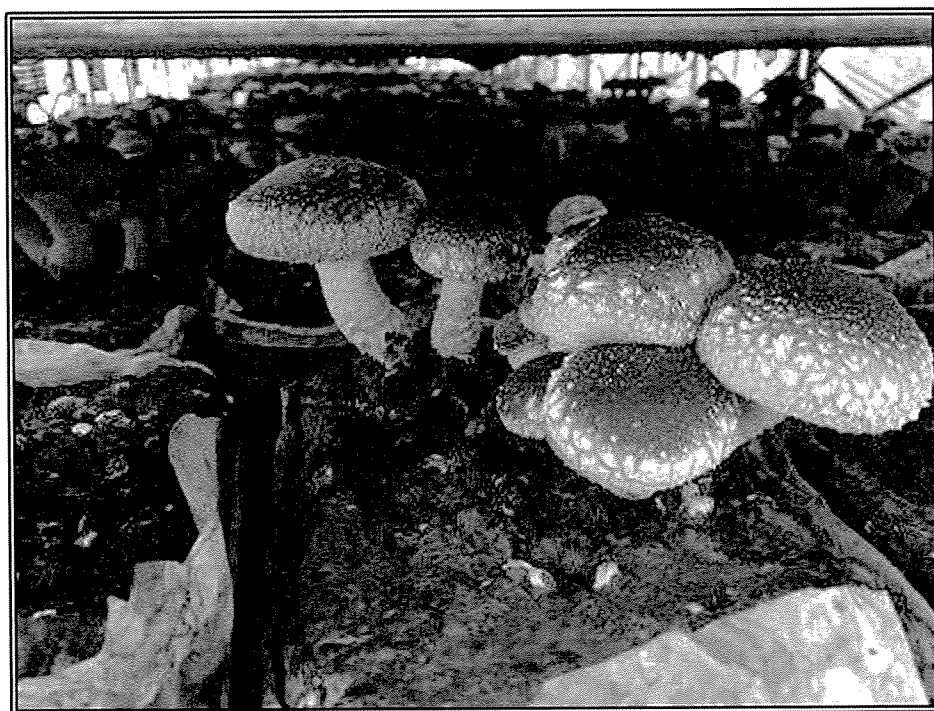


菌床シイタケ・キクラゲ栽培の高収益化と増産
による経営力強化及び雇用創出への貢献



株式会社伯耆のきのこ

代表取締役 三嶋真樹

1. はじめに

全国的に耕作放棄地・遊休農地が増加する中、私の住んでいる日吉津村でも、この対策が急務となっている。これらの原因として、農家の高齢化・担い手不足があげられるが、更に掘り下げると、現在の農業が労働の割に儲からないという根本的なことが原因であると言える。農業者が無理の無い労働で、家族を十分に養え、当たり前前に贅沢が出来るような産業であれば、若者の労働意欲を駆り立て、従事者が増える結果になると考えられる。

それを踏まえ弊社は、平成 26 年 7 月 4 日に設立し、下記の企業理念のもと菌床シイタケ・キクラゲの生産販売を行っている。

企業理念

「産業としての農業を確立し、雇用の場を提供する」

菌床シイタケは、表 1 の通り単位労働時間当たり、単位面積当たりの所得が、他作物と比較して良く、さらに表 2 の通り、鳥取県の生シイタケ生産量は、原木・菌床あわせて全国で 42 番目と非常に少ない。鳥根県と比較すると約 1/10 である。また菌床栽培を空調管理可能なハウスを活用した施設栽培で行うことにより、1 年中生産する事が出来る。これらの事から総合的に試算を行い、販路・雇用・利益が確保できる事業であると考え、起業に至った。

表 1 作物ごとの所得比較

出典元	品目	面積	収量	粗収益	単価	経営費	所得	所得率	労働時間	労働時間	耕作面積
		[a]		[千円]	[円]	人1日あたり	[千円]		[hr]	当り所得	当り所得
担い手機構	水稲	10.0	480 kg	121	252	126	-5	-4%	29	-170	-492
担い手機構	大豆	10.0	250 kg	30	120	73	-43	-143%	9	-4,770	-4,293
担い手機構	白ネギ	10.0	2,600 kg	892	343	628	263	30%	521	506	26,345
担い手機構	ブロッコリー	10.0	960 kg	298	310	236	62	21%	113	549	6,202
担い手機構	アスパラガス	10.0	1,000 kg	920	920	546	374	41%	520	720	37,415
担い手機構	トマト	10.0	8,000 kg	2,480	310	2,024	456	18%	690	661	45,599
担い手機構	イチゴ	10.0	4,200 kg	3,962	943	2,972	990	25%	1,776	558	99,041
担い手機構	スイカ	10.0	5,100 kg	842	165	633	209	25%	199	1,051	20,911
担い手機構	ミニトマト(抑制)	10.0	3,400 kg	2,390	703	1,667	723	30%	652	1,109	72,317
担い手機構	ピーマン(夏秋)	10.0	4,300 kg	869	202	652	217	25%	392	554	21,698
担い手機構	プリンスメロン(ハウス)	10.0	2,500 kg	873	349	704	169	19%	447	377	16,869
担い手機構	ホウレンソウ(6作/年)	10.0	5,120 kg	2,867	560	2,325	542	19%	1,628	333	54,173
担い手機構	ラッキョウ	10.0	1,870 kg	874	467	720	154	18%	260	591	15,361
担い手機構	ニンジン(秋冬)	10.0	3,500 kg	385	110	297	88	23%	75	1,167	8,751
担い手機構	ナガイモ(ねばりっこ)	10.0	3,200 kg	1,380	431	991	389	28%	306	1,271	38,881
担い手機構	梨(新甘泉(有袋))	10.0	3,500 kg	1,558	445	748	810	52%	283	2,862	80,995
担い手機構	富有柿(露地)	10.0	2,200 kg	535	243	333	201	38%	158	1,273	20,115
担い手機構	富有柿(露地)	10.0	2,000 kg	580	290	403	177	31%	182	974	17,727
担い手機構	ぶどう(ピオーネ)	10.0	1,500 kg	1,500	1,000	1,134	366	24%	434	843	36,572
担い手機構	新テッポウユリ(露地)	10.0	28,000 本	2,128	76	1,707	421	20%	642	655	42,061
担い手機構	キク(露地、秋)	10.0	32,000 本	1,910	60	1,088	822	43%	907	907	82,245
担い手機構	ストック	10.0	28,000 本	1,680	60	1,191	489	29%	399	1,225	48,861
担い手機構	ペチュニア	10.0	60,000 ポット	3,096	52	2,198	898	29%	844	1,064	89,792
担い手機構	原木シイタケ(ほだ木1万本)	10.0	3,476 kg	4,017	1,156	1,507	2,510	62%	3,699	679	251,038
農林水産統計	原木シイタケ(ほだ木0.86万本)	33.0	2,711 kg	2,786	1,028	2,450	336	12%	1,934	174	10,185
農林水産統計	菌床シイタケ(菌床製造)	8.1	10,708 kg	9,306	869	6,699	2,607	28%	3,413	764	320,664
徳島県林業振興センター	菌床シイタケ(菌床製造)	53.0	144,000 kg	210,240	1,460	73,975	136,265	65%	64,660	2,107	2,571,045
徳島県林業振興センター	菌床シイタケ(菌床購入)	9.0	12,600 kg	13,650	1,083	9,785	3,865	28%	1,500	2,577	429,478
農林水産統計	エノキタケ	0.4	103,589 kg	30,710	296	24,115	6,595	21%	4,330	1,523	16,487,500
農林水産統計	ブナシメジ	0.4	98,749 kg	41,348	419	34,476	6,872	17%	4,467	1,538	17,180,000
農林水産統計	マイタケ	0.7	54,472 kg	42,604	782	36,280	6,324	15%	3,175	1,992	9,034,286
農林水産統計	ナメコ	0.4	27,231 kg	12,495	459	10,175	2,320	19%	3,265	711	5,800,000

表2 県別シイタケ生産量

(単位：トン)

都道府県	乾しいたけ						生しいたけ		
	原木栽培				菌床栽培	乾しいたけ計	原木栽培	菌床栽培	生しいたけ計
	どんこ	こうしん	山成	計					
01北海道	0.6	1.5	0.3	2.4	13.2	15.6	270.6	7,692.7	7,963.3
02青森	-	-	0.2	0.2	-	0.2	118.9	164.8	283.7
03岩手	29.3	41.3	25.8	96.4	4.1	100.5	188.4	4,904.7	5,093.1
04宮城	0.5	0.1	-	0.6	3.5	4.1	44.6	707.6	752.2
05秋田	0.9	1.2	0.7	2.8	1.2	4.0	140.8	2,971.4	3,112.2
06山形	-	0.2	-	0.2	-	0.2	156.4	1,098.4	1,254.8
07福島	0.5	0.4	1.0	1.9	0.9	2.8	128.3	1,157.0	1,285.3
08茨城	0.5	2.6	1.3	4.4	0.6	5.0	352.3	334.5	686.8
09栃木	-	-	0.1	0.1	3.2	3.3	180.5	2,258.7	2,439.2
10群馬	0.7	0.9	0.7	2.3	6.7	9.0	911.2	3,054.3	3,965.5
11埼玉	0.3	1.2	10.1	11.6	0.1	11.7	322.3	610.4	932.7
12千葉	0.5	2.7	2.6	5.8	0.2	6.0	151.4	381.3	532.7
13東京	-	0.3	-	0.3	-	0.3	170.6	74.0	244.6
14神奈川	-	0.1	0.2	0.3	-	0.3	59.2	211.9	271.1
15新潟	12.5	12.6	6.5	31.6	0.9	32.5	82.7	2,202.0	2,284.7
16富山	-	0.2	0.3	0.5	6.6	7.1	28.3	1,179.1	1,207.4
17石川	7.2	5.0	5.5	17.7	1.7	19.4	50.5	860.7	911.2
18福井	0.4	1.3	0.6	2.3	-	2.3	37.3	219.9	257.2
19山梨	2.3	6.4	1.1	9.8	-	-	-	87.9	179.6
20長野	0.9	3.3	4.9	9.1	-	-	-	745.8	879.3
21岐阜	0.5	1.7	7.8	10.0	-	-	-	1,665.5	1,875.0
22静岡	56.6	39.9	12.5	109.0	-	-	-	786.5	1,516.9
23愛知	0.9	2.1	2.0	5.0	-	-	-	579.6	731.0
24三重	3.3	6.9	2.2	12.4	9.2	21.6	105.5	789.5	895.0
25滋賀	0.2	3.3	0.6	4.1	0.2	4.3	33.2	451.5	484.7
26京都	0.5	1.1	2.5	4.1	0.6	4.7	76.7	152.5	229.2
27大阪	0.7	1.0	0.2	1.9	1.3	3.2	87.7	54.6	142.3
28兵庫	2.1	2.7	3.6	8.4	2.9	11.3	123.3	970.5	1,093.8
29奈良	1.1	3.3	3.6	8.0	0.1	8.1	137.6	264.2	401.8
30和歌山	0.4	3.8	0.4	4.6	-	4.6	50.2	1,033.7	1,083.9
31鳥取	5.5	9.5	3.9	18.9	0.1	19.0	33.3	155.9	189.2
32島根	4.7	11.0	3.3	19.0	3.3	22.3	30.8	1,887.2	1,918.0
33岡山	8.2	9.5	11.6	29.3	-	29.3	110.2	971.3	1,081.5
34広島	1.8	3.1	1.2	6.1	1.8	7.9	120.3	828.5	948.8
35山口	5.6	11.1	2.5	19.2	-	19.2	46.2	101.7	147.9
36徳島	0.4	1.8	1.0	3.2	1.2	4.4	26.3	8,127.9	8,154.2
37香川	0.8	1.4	0.1	2.3	-	2.3	92.2	250.9	343.1
38愛媛	21.8	82.5	123.8	228.1	-	228.1	50.6	534.1	584.7
39高知	1.5	13.4	10.0	24.9	0.2	25.1	113.2	318.5	431.7
40福岡	10.1	13.0	5.0	28.1	0.1	28.2	257.9	423.7	681.6
41佐賀	0.8	4.8	-	5.6	0.2	5.8	29.7	65.6	95.3
42長崎	30.9	34.2	12.1	77.2	18.4	95.6	84.1	3,315.2	3,399.3
43熊本	101.4	164.4	25.0	290.8	-	290.8	651.1	448.9	1,100.0
44大分	696.1	1,009.8	75.3	1,781.2	2.0	1,783.2	535.9	944.9	1,480.8
45宮崎	70.9	431.8	141.8	644.5	7.6	652.1	215.7	1,654.9	1,870.6
46鹿児島	6.3	43.9	10.6	60.8	-	60.8	703.2	345.2	1,048.4
47沖縄	-	-	-	-	-	-	0.7	10.2	10.9
計	1,090.2	1,992.3	524.5	3,607.0	98.4	3,705.4	8,426.4	58,049.8	66,476.2

鳥取県
189.2トン
全国で42番目

出典 農林水産省平成24年特用林産基礎資料

2. 事業の流れと当初計画

シイタケの菌床栽培の流れは、図1上段の通りである。①菌種メーカーが保有する菌を使い②菌床を製造し植菌する③シイタケの場合100日程度培養し完熟させる④発生作業・収穫を行う（表紙写真のブロック）⑤選別・袋詰めしたものを⑥出荷する。

図1下段は、創業当初の計画である。創業から3期目までは、菌床を他社から購入し、発生作業以降を自社で行う。4期目から6期目で菌床を自社製造し、委託農家を育成しそちらへの菌床の供給を行う。7期以降で鳥取大学などと共同開発を実施し、自社菌種を品種登録し、菌種製造を開始する。

現在は、4期目となり菌床の自社製造化に取り組む段階である。

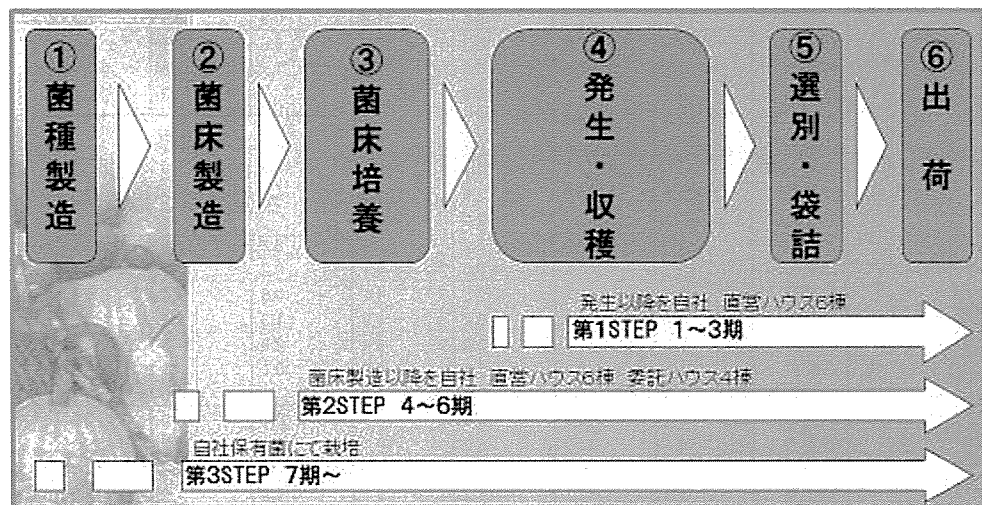


図1 事業の流れと当初計画

3. 設立から現在までの経過

表3 労働力と役割分担

	氏名	役職	業務内容	年間従事日数(日)	備考
1	三嶋 真樹	代表取締役	経営	300日	S46.1.9 生まれ
2			ハウス内作業・出荷	276日	H27.2月採用
3			ハウス内作業・選別袋詰	276日	H27.12月採用
4			ハウス内作業・選別袋詰	276日	H28.5月採用
5			ハウス内作業・出荷	276日	H28.6月採用
6			ハウス内作業・出荷	276日	H28.9月採用
7			事務・営業	204日	H28.12月採用
8			選別袋詰	180日	H27.10月採用

表4 主たる機械・設備

機械・設備	能力・規模	数量	導入時期	備考（活用した資金・事業等）
発生ハウス シイタケ・キクラゲ兼用	6×18m	5棟	H26.9月（1棟目） H27.6月（2棟目）	金融機関借入金 青年等就農資金
きのこ専用エアコン	200V 7.5kW	5機	H27.11月（3棟目） H28.9月	就農条件整備事業
栽培棚	6段キャスター付き 1棟に56台	5式	（4・5棟目）	
プレハブ冷蔵庫	ホシザキ製 1.5坪	1機	H26.9月	
プレハブ冷蔵庫	ホシザキ製 2.0坪	1機	H28.11月	
乾燥機	J-RABO製 200V	1機	H29.2月	
真空包装機	V-280A	1機	H27.6月	
井戸ポンプ	テラル製	1機	H26.9月	

表5にこれまでの経過を項目ごとにまとめた。約半年ごとに1棟ハウスを増設し、生産量を増やしている。シイタケの主な販売先は、鳥取県西部を中心とするスーパー各店舗と飲食店であり、ハウスの増棟に応じて販路を開拓している。しかし、需要に追いついておらず増産の余地は十分にある。

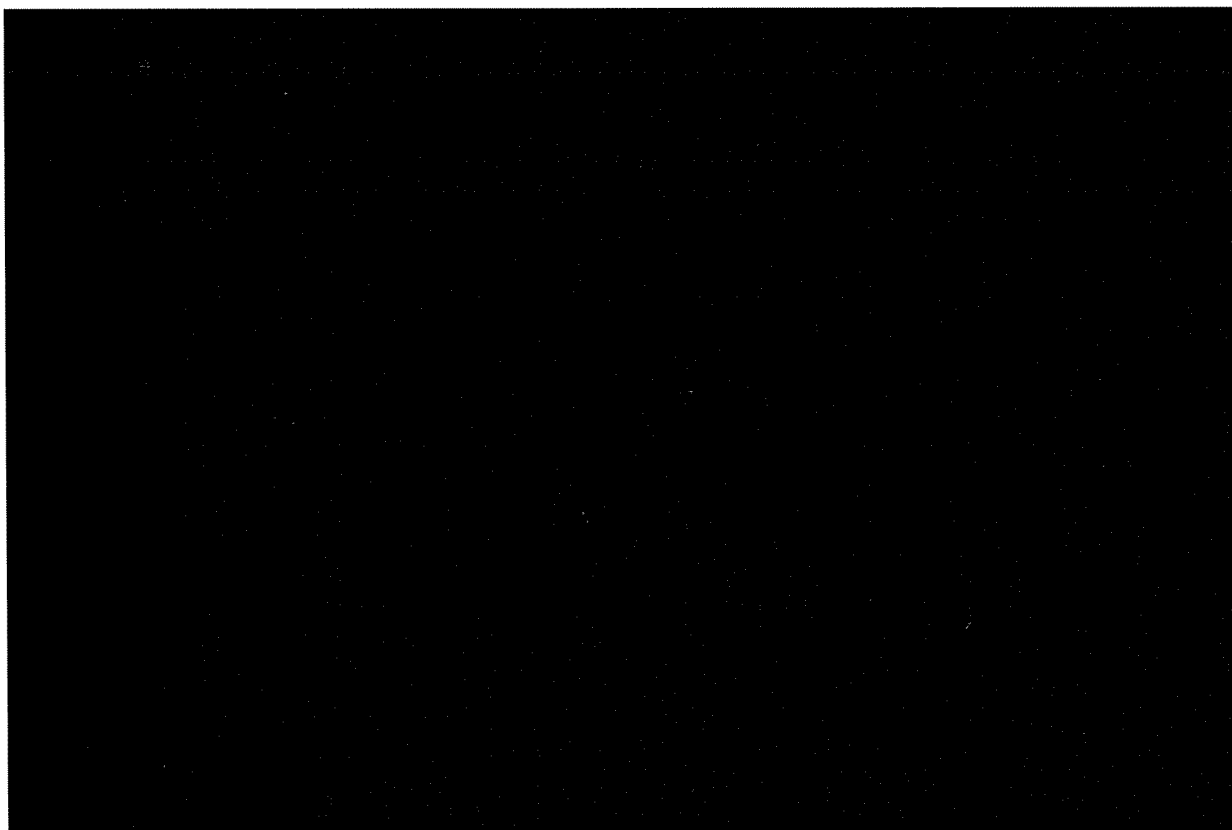
また、H28年11月より、キクラゲの生産販売を開始した。これは、(一財)日本きのこセンター経由で大手外食チェーンの[]と乾燥キクラゲを販売するもので、当初計画には無かったが、鳥取県内の生産量が圧倒的に不足しているとの事から、事業の成長性を見込んで取り組んだものである。[]のキクラゲ需要は、生キクラゲ換算で年間500トンにもなり、自社保有ハウスの生産量に換算すると約50棟必要となるほど膨大なものである。[]及び(一財)日本きのこセンターからも強く納入要望を受けており、キクラゲの生産は、今後当社の大きな柱となる。

雇用面では、ハウス1棟当たり1.5名程度の人員が必要であり、現在正社員6名（内事務員1名）非正規1名の合計7名が従事している。

表5 設立から現在までの経過

6月末決算

		1期 (平成26年度)	2期 (平成27年度)	3期 (平成28年度)
ハウス棟数 (6m×18m)	シイタケ	2棟	3棟	4棟
	キクラゲ			1棟
	合計	2棟	3棟	5棟
生産量	生シイタケ	2ト/月	3ト/月	4ト/月
	生キクラゲ			1ト/月
	合計	2ト/月	3ト/月	5ト/月
雇用	正社員	2名	3名	6名
	非正規	1名	1名	1名



4. 現状の課題

課題-① 菌床コスト

図2は、現状の製造原価に占める各経費の割合である。菌床を他社から購入しているため、仕入れにかかるコストが、全体の50%にもなっている。また、菌床の搬入時には、車で片道1時間の距離にある場所まで引き取りに行く必要があり、人件費にも影響している。菌床にかかるコストを低減することで、収支面が大きく改善する。

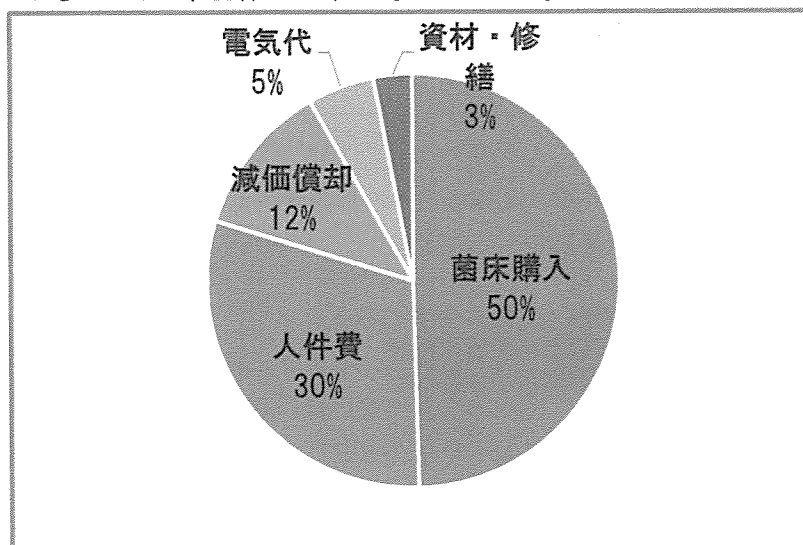


図2 現状の各製造原価割合

課題-② 菌床不足

表6と表7は、ハウス1棟当たりのシイタケ・キクラゲそれぞれの目標収穫量とそれに必要な菌床数を示したものである。シイタケ・キクラゲともにハウス1棟当たりに必要な菌床は月間1000個であり、現在5棟のハウスであるため、月間5000個の菌床を仕入れている。

今後、XXXXXXXXXX向けの乾燥キクラゲを増産していくためには、菌床の仕入れを増やす必要があるが、現在の仕入先の生産能力では足りず、仕入れを増やすことが出来なくなっている。また配送圏内の近隣で菌床製造をしている事業所が、非常に少なく、あったとしても他社へ供給するだけの生産能力が無いため仕入が出来ず、このままでは増産が出来ない状態である。

表6 シイタケハウス1棟当たり菌床の必要数と収穫目標

①ハウス1棟当たり菌床収容数	7000個
②菌床寿命	7ヶ月
③ハウス1棟当たり年間菌床必要数 ①/②×12ヶ月	約12,000個/年 約1,000個/月
④菌床1個当たりの目標収穫量(生シイタケ)	1kg
⑤ハウス1棟当たりの目標収穫量(生シイタケ) ③×④	約12ト/年 約1ト/月

表7 キクラゲハウス1棟当たり菌床の必要数と収穫目標

①ハウス1棟当たり菌床収容数	5000個
②菌床寿命	5ヶ月
③ハウス1棟当たり年間菌床必要数 ①/②×12ヶ月	約12,000個/年 約1,000個/月
④菌床1個当たりの目標収穫量(生キクラゲ)	1kg
⑤ハウス1棟当たりの目標収穫量(生キクラゲ) ③×④	約12ト/年 約1ト/月

課題③ 県外業者の参入

のキクラゲの消費量は、前述の通り年間生換算で500トンにもなり、国内の全生産量に近い量である。現在、(一財)日本きのこセンターの指導のもと、県内で生産者が少しずつ増え始めているが、まだまだ少ないのが現状である。

このような品不足状態が続けば、県外業者が新たにキクラゲ栽培に参入したり、自体が参入することも十分に予想されるため、早い段階で納入数量を確保する必要がある。

課題④ 労働力の確保

増産に伴い、現場作業員の労働力の確保が必要となる。ハウス内の発生・収穫作業だけでなく、収穫後の選別・袋詰め作業の負荷が大きくなる。また、従業員が増加することで、組織的な意思決定を行う必要が生じるため、リーダー的な人員の育成も不可欠になってくる。

5. 課題に対する対策

上述の3つの課題①~③に対する解決策は、菌床を自社製造することによる①菌床コストの削減と②菌床の安定供給であり、また菌床の安定供給が出来ることで③キクラゲの増産につながる。

図3に対策のイメージを図示した。平成29年度に自社の菌床製造工場を新設、シイタケ菌床の培養用ハウスを2棟新設、キクラゲ用の培養兼発生ハウスを4棟新設する。既存の5棟のハウスは、シイタケ専用のハウスとする。さらに平成30年度、31年度で3棟ずつ増棟するとともに、菌床製造量を上げ菌床の供給を行っていく。

この対策により、シイタケ・キクラゲともに生産量が上がり、売り上げを上げる事が出来る。また、自社で菌床工場を持つことにより、菌床のコストが削減され、また供給不足に陥ることなく、安定した生産が可能となる。特にキクラゲの増産は、鳥取県産キクラゲを安定的に供給できる体制を作る事につながり、への供給量確保に大きく貢献できる。

課題④の必要な労働力については、正社員3名、非正規社員4名の増加に加え、現在も依頼している福祉作業所への作業委託を増やしていく。それに伴い、敷地内に休憩室やトイレの設置を行っていく。また、リーダー候補者をすでに2名選出しており、意識面を含めて育成しているところである。

平成30年度以降は、シイタケ及びキクラゲの委託農家を育成し、当社の菌床を供給していく。当面は、工場の生産を最大能力の半分で稼働させるが、委託農家の増加に伴い、徐々にフル生産に切り替えていく。

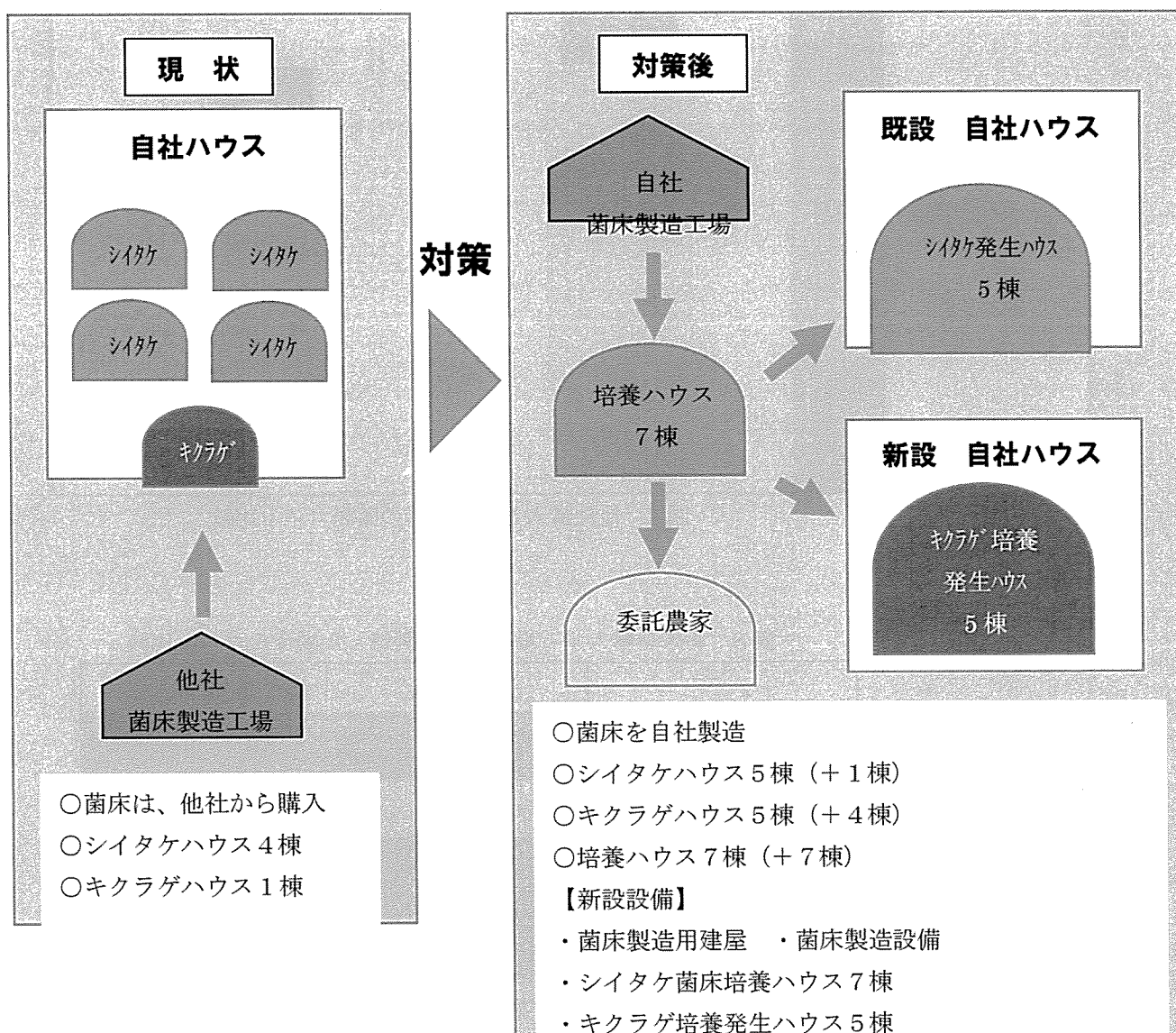


図3 対策のイメージ図

6. 対策による効果

(1) 菌床のコスト削減効果

図4は、現状の他社製造の菌床を購入した場合と自社で製造した場合の菌床1個当たりのコスト比較である。これまで、シイタケ・キクラゲともに単価 [] 円で仕入れていた菌床が、 [] 円にコスト削減出来る。これによる年間のメリットは、表8のとおり現状で年間 [] 円強、増産後は年間 [] 円強となる。また、フル生産した場合には1個当たりの減価償却費が半分に下がるため、製造コストを [] 円まで下げる事が出来、更にメリットがでる。

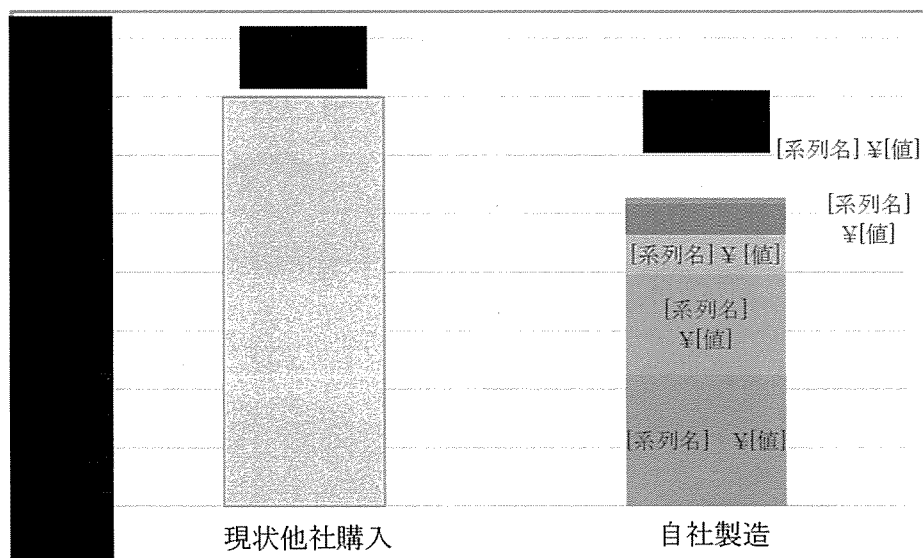


図4 他社購入と自社製造の菌床コスト比較

表8 菌床を購入する場合と自社製造した場合のコスト比較

		現状購入	自社製造
菌床コスト		[]	
現状	菌床使用量	年間 60,000 個 (12000 個/棟×5 棟)	
		[]	
増産後	菌床使用量	年間 120,000 個 (12000 個/棟×10 棟)	
		[]	

(2) 売り上げの向上

表 9 に対策実施後の生産量と売り上げ額を示した。生産量が生シイタケで月当たり 1 トン、生キクラゲで 3.8 トン増産となり。総売上額は、月当たり 4 百万円弱の増加となる。

表 9 対策による売り上げ向上効果 毎期 6 月度の数字を示す

		現状 3 期 (H28 年度)	4 期 (H29 年度)	5 期 (H30 年度)	6 期 (H31 年度)
ハウス 棟数	シイタケ	4 棟	5 棟	5 棟	5 棟
	キクラゲ	1 棟	4 棟	5 棟	5 棟
	培養	0 棟	2 棟	4 棟	7 棟
	合計	5 棟	11 棟	14 棟	17 棟
生産 量	生シイタケ	4 トン/月	5 トン/月	5 トン/月	5 トン/月
	生キクラゲ	1 トン/月	4.8 トン/月	6 トン/月	6 トン/月
	菌床	0 個/月	9000 個/月	11000 個/月	15000 個/月
	合計	5 トン/月	9.8 トン/月	11 トン/月	11 トン/月

(3) 雇用の増加

表 10 に対策実施後の雇用人数を示した。正社員が 3 名増加し 9 名、非正規社員が 4 名増加し 5 名となり、全体で 7 名の増加となる。将来的に委託生産が開始され、菌床の供給量が増えることで、更に雇用の増加が見込まれる。本社は現在米子市内にあるが、菌床工場新設を機会に本社も日吉津村内に移転し、村内の方を積極的に雇用していく。

表 10 対策による雇用の増加 6 月末決算

		現状 3 期 (H28 年度)	4 期 (H29 年度)	5 期 (H30 年度)
雇用	正社員	6 人	7 人	9 人
	非正規	1 人	4 人	5 人
	合計	7 人	11 人	14 人

(4) 地域貢献

キクラゲの生産は比較的単純作業で出来るため、積極的に福祉作業所への委託を増やしていきたい。表 11 は、福祉作業所に委託できる作業の量をまとめたものである。キクラゲの生産量の増加に伴い、福祉作業所へ委託可能な作業も増加する。当社としても人件費の削減が期待できるため、両者にとって大きなメリットが得られる。

表 11 福祉作業所へ委託可能な作業量 6月末決算

対象 キクラゲ		現状 3 期 (平成 28 年度)	4 期以降 (平成 29 年度)
軸切 作業	作業量	1,000kg/月	4,800kg/月
収穫 作業	作業量	—	4,800kg/月

7. 今後の具体的な取り組みと役割分担

・機械施設等の導入計画

事業費に消費税は含まず (千円)

事業内容		数量	事業費	H29	H30	H31
H29年 ハウス6棟 増設	シイタケ培養ハウス	2棟	5,133	◎		
	キクラゲ培養・発生ハウス	4棟	10,267	◎		
	シイタケ培養ハウス用エアコン	2機	2,600	◎		
	キクラゲ培養・発生ハウス用エアコン	4機	5,200	◎		
	シイタケ用栽培棚	2式	4,156	◎		
	キクラゲ培養・発生用棚	4式	7,400	◎		
H30年 ハウス3棟 増設	ビニールハウス電気工事	1式	1,035		◎	
	ビニールハウス土間工事	1式	3,037		◎	
	シイタケ培養ハウス	2棟	4,795		◎	
	キクラゲ培養・発生ハウス	1棟	2,398		◎	
	シイタケ培養ハウス用エアコン	2機	2,808		◎	
	キクラゲ培養・発生ハウス用エアコン	1機	1,720		◎	
	シイタケ用栽培棚	2式	4,488		◎	
	キクラゲ培養・発生用棚	1式	1,998		◎	
H31年 ハウス3棟 増設	ビニールハウス電気工事	1式	1,035			◎
	ビニールハウス土間工事	1式	3,037			◎
	シイタケ培養ハウス	3棟	7,193			◎
	シイタケ培養ハウス用エアコン	3機	4,212			◎
	シイタケ用栽培棚	3式	6,733			◎
H29年 菌床製 造設備 新設	プレハブ倉庫(菌床製造棟)	1棟	21,468	☆		
	プレハブ倉庫(選別出荷棟)	1棟	1,630	☆		
	菌床製造用クリーンルーム工事	1式	4,307	☆		
	菌床製造用仕込み機材	1式	6,363	☆		
	菌床製造用接種機材	1式	3,264	☆		
	菌床製造用殺菌機材	1式	11,298	☆		
	菌床製造用ボイラー設備	1式	3,003	☆		
	菌床製造用接種室空調機	1式	3,652	☆		
H29年 付帯工 事	建築共通仮設費	1式	2,415	○		
	電気幹線工事	1式	10,800	○		
	設計費	1式	3,750	○		
	土地造成工事	1式	19,468	○		
	上下水道工事	1式	3,929	○		
		ビニールハウス土間他工事	1式	5,624	○	
合計			180,216	135,727	22,279	22,210

・各負担額明細

事業費に消費税は含まず（千円）

事業内容	実施年	事業費	本人	鳥取県	日吉津村	
ハウス6棟増設	H29年	34,756	20,756	10,500	3,500	がんばる農家
菌床製造設備新設	H29年	54,985	49,486	5,499	0	企業立地
付帯工事	H29年	45,986	45,986	0	0	
ハウス3棟増設	H30年	22,279	8,279	10,500	3,500	がんばる農家
ハウス3棟増設	H31年	22,210	8,210	10,500	3,500	がんばる農家

・事業者としての取り組み

取り組み内容	H29	H30	H31
雇用の創出	○	○	○
シタケ・キクラゲの売上げ増加	○	○	○
委託農家育成・菌床提供		○	○
福祉作業所との連携	○	○	○

◎：がんばる農家プラン支援事業を活用

☆：鳥取県企業立地等事業助成条例に基づく支援（県商工労働部所管）を活用

○：事業者としての取り組み

*事業活用して導入する設備の補助残および事業者として導入する設備等の資金は、日本政策金融公庫及び民間金融機関からの借入金にて対応予定。

○がんばる農家プラン事業費補助金について

H29年事業費 34,756千円

補助金額 14,000千円

【補助金額内訳】

県：10,500千円（補助上限額21,000千円×1/2（雇用による嵩上げ））

村：3,500千円（補助上限額21,000千円×1/6）